

国語

出題の傾向

今年度の入試から、傾向が大幅に変更となりました。①の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・指示語・内容把握などを出題しましたが、今年から新たに②として、「思考力・判断力・表現力」を問う形式の問題を出題しました。③の古文は、随筆や説話などから、語句の意味・内容把握などを、これも例年通り語注や現代語訳で補助をして出題しました。なお、各問題の配点は、今年から現代文50点、新しい学力観に基づく問題25点、古文25点に変更しています。

2019 今年度の出題と解説

①の現代文は、『ゾウの時間ネズミの時間』（本川達雄）からの出題でした。本文の内容は、「車輪」という具体例を使って、機械文明の問題について論じた文章でした。わかりやすい言葉を使っていることもあり、論旨は理解しやすかったかと思います。また、設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だと思います。

問1 漢字の問題

どれも、本や新聞、ニュースなどでよく目にする言葉です。しかし、日頃から文章を読む量が少なく、語彙力に乏しい生徒にとっては難しい問題もあったと思われます。典型的な例として、⑤「起伏」の正解率が予想以上に低かったです。漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることももちろん大切ですが、日常生活の中で鍛えられる部分も非常に大きいことを覚えておいて下さい。

問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、毎年、きちんと対策してきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。①は、「場所」という名詞を修飾しているので、連体詞です。②は、少し難易度の高い問題でした。例示の働きがあることから、接続詞と勘違いで覚えている人も多いかと思いますが、「たとえば」は、文末にある用言を修飾することから、品詞は副詞になります。③は、基本の形（＝終止形）に戻すと、「多い」という「～い」で終わり、かつ状態を示す語となるので、形容詞です。④は、「もの」「ところ」などと同じく、形式名詞と呼ばれるものです。⑤は、動きを示す言葉で、基本形（＝終止形）に戻すと、「う」で終わる動きを示す語となりますので、動詞となります。特に、活用する用言（動詞・形容詞・形容動詞）は、基本の形に戻せるよう、過去問で練習をしておいて下さい。

問3 空欄補充の問題（選択）

文脈を把握する力を試す問題です。こういう問題を解くには、周りの文から解くためのヒントを集め、どんな言葉を入れたら文脈が成立するのかが確認することが重要です。①は、「砂利道やぬかるみ」での車輪の動き方と関係があります。また、②は、少し後の傍線部①「ほとんど役に立たない」と同じ意味になることに気付きましょう。すると、エ「お手上げだ」が正解だと導くことができます。③も、そこまで論じられてきた「車の動く条件」であり、後の「環境をガラリと変えなければ」に対応することに気づけば、ア「まっ平ら」という正解にたどりつくことができます。

問4 内容把握の問題（抜き出し）

「凸凹ややわらかい地面では」という条件と同意の部分に気付けば、比較的簡単に見つけ出せます。2ページの「地面がふかふかしたりネチャネチャしたりすれば」というところですね。つまり、役に立たないのは、「回転に対する抵抗がすぐに大きくなって回りにくくなる」からです。

問5 内容把握の問題（選択）

まず、設問が何を求めているかをチェックします。「自然」に注目した理由ですね。ということは、「自然」について書かれた部分を見れば正解が見えてくるはずですね。傍線部②の後には、「自然の中では車輪は役に立たない」という事例が、ネズミやアリを例に出して語られていますね。それを理解して、選択肢と見比べてみましょう。

問6 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞な

どでわからない言葉に出合った時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたリして「語彙力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。また、文の流れからどんなイメージの語かを確認することも重要です。例えば、④は、「袋＝入口があって出口がない＋小路」と連想できれば、選択肢をしぼることができます。

問7 指示語の問題（抜き出し）

指示語のポイントは、「指示内容を理解すること」です。まず、「こんなこと＝美しい道がコンクリートの道に変わっている（つまり、美しさを失っている）」ことです。さらに、設問の条件は「九字で「どのようなこと」なので、三つの条件を全て満たしている「環境を征服すること」が正解となります。なお、傍線部⑤のすぐ後にある「道路を『良くする』」は、内容としては正解だと言えますが、答え方としては「こと」で終わっていない点で条件を一つ満たしておらず、完全な正解とは言えませんので、減点となります。二つ以上の解答候補がある場合は、より良い解答を選択できるように、条件の確認をしっかりするクセをつけましょう。

問8 内容把握の問題（記述）

比較的平易な記述問題です。「すなおな延長」は比喻表現であると気づいて、傍線部の次の文との対応をしっかりと確認して答えましょう。語順が違っていても、同じ意味の解答ならば正解です。

問9 内容把握の問題（選択）

傍線部が、その後の「車というものが、まだまだ完成されていない（＝未熟な）技術」の証明であると読み取ることができれば、解答はそれほど難しくないと考えられます。

②の問題は、今年度から導入された「新傾向」の問題です。この問題は、複数の資料から設問に必要な情報を選び、取り出して、適切な解答を作り出すという、新しい学力観に基づいた内容になっています。

問1 まずは、与えられたグラフの中で、①と②に関係するのはどれかを見つけて出します。まず、①は、D君が、日本を訪れる人が増えた理由が、「お金が安くなった」ことだと答えているので、「為替レート」に関するグラフを確認する必要があります。見ると、2011年に1ドル＝79.8円であったのが、2017年には1ドル＝112.2円になっていることが読み取れます。この現象は、「ドルに対して円の価値が下がった」ことを示しますので、「円安」が正解になります。新聞やテレビで目にする「円高」「円安」という言葉の意味を理解することにも目を向けておきましょう。次に、②については、前後の文章から「日本への来訪者数が増えている」国で、「経済発展がめざましい」国だと分かります。よって、「国別訪日外客数」のグラフでまず「来訪者が大きく増えている」韓国と中国に着目し、その2か国に関する「経済成長率」のグラフから、毎年高い水準で経済が成長している「中国」を選びます。

問2 この問題は、文章中のヒントを基にして、適切な内容を選び取る問題です。まず③は、「予約の取れない状況」が大きなヒントになります。選択肢の中で「予約」が関係しているのは、「宿泊所不足」しかありませんね。次に、④については、「地方都市のさらなるアピール」が解決のカギで、「外国人旅行者の来訪は都市部や特別な観光地に偏っている」ことが問題点なので、「分散」させることが必要だと読み取れます。次の⑤は、「外国人が一番困る問題」「地方の日本人スタッフが学ぶべき問題」から、言葉が通じない＝「外国語への対応」を読み取りましょ

う。また、**6**は**5**の解答とは発想が逆なのだから、「日本人が外国語を学ぶ」のではなく、「外国人が日本語を学ぶ」ことで解決する方法だと理解できます。つまり、「日本語」が正解となります。

問3 傍線部①は、「その点では…」という指示語のつながりが大きなヒントです。Cさんの発言は、「外国人にとっての言葉の問題」でしたから、それを解決できる法律であると読み取りましょう。「改正通訳案内士法」が当てはまります。

問4 文法的な間違いを指摘し、文脈に合うように作り変える問題です。いくつかの注意点がありますので、順番に確認していきます。まず、直前の文で、まだまだ改善が必要とされているので、B君は、「今の日本は、本当に外国人が魅力的だと感じるには不十分だ」と思っていることが分かります。だから、主語「僕は」に対しての述語は、「～ほしい」という「日本がより良くなる願望」でなければなりません。その意味で、「なることを願っています。」「なつてほしいと思います。」は正解になります。しかし、「なると思います。」は、この会話文の中身から「なる」という根拠を導くことができない上に、ここで発言を終えているので、自分で根拠を説明することもしていません。不正解ではありませんが、減点となります。また、「したいです。」「していきべきだと思います。」は、意味的にはおかしくないですが、「日本が」に対しての文のつながりがおかしくなってしまうので、大きく減点となります。

問5 最後の記述問題は、与えられた言葉をどう使うかがポイントでした。まず、Aさんの発言は、「全体のまとめ」であることを大前提として理解する必要があります。この会話全体からは、「日本の外国人受け入れは、改善すべき点が多い」ことが分かりますね。そこを外さずに記述すると、「受け入れのための環境整備」と組み合わせた解答が書いているかという点が大きなポイントとなります。次に、述語は二通りの書き方が考えられます。「環境整備を進める(改善する)必要がある」と将来の展望を述べる方法と、「環境整備が十分に整っていない」という現状を説明する方法です。この点では、両方の解答を正解にしています。問われていることに対して矛盾が生じない解答を作成するのはなかなか難しいですが、記述問題については、「どのように書けば、語弊や意味の取り違えがなく、相手にしっかり伝わるか」と考えながら記述を進める姿勢が大切になります。単に写し取る勉強はやめて、解答作成の前にしっかりメモを取って、書くべきことを整理・厳選し、表現しましょう。

③の「古文」の問題は、「古事談」からの出題でしたが、現代語で理解できる部分をつなげていけば、話の大筋をつかみ、解答できたと思います。まずは、現代語訳を載せておきます。なお、古文の問題数が減ったことにより、長年出題されていた「歴史的仮名遣い」の問題は、本年度より出題していません。

【現代語訳】(わかりやすく、言葉を補って訳しています)

安養の尼(と呼ばれた尼さん、安養寺に住んでいた尼さん)のもとに強盗が入った。物品を皆盗んで出て行ったので、尼君は紙衾(かみぶすま・紙の側に藁を入れて作った夜具布団)という物だけを引き被って座っておられたところ、この尼のもとに、妹の小尼公という人がいたのだが、走

て参上して見たところ、(強盗が)枯草色の小袖を一つ落としてあったのを手に取り、「これを盗人が取り落としております。御召し下さい。」と言って持って来たところ、尼君が言われたことには、「これも一旦取ったからには、強盗は自分の物とこそ思っているでしょう。持ち主(強盗)の許可を得ていない物を、どうして着る事が出来るでしょう。(強盗が)遠くへ行く前に、早く返しなされるべきだわ」とおっしゃるので、門の方へ走り出て、「もしもし」と呼び返して、「これを落とされまわっていましたよ。差し上げましょう。」と言ったところ、盗人達は立ち止まり、少しの間考え込んだ様子であったが、「盗みに入るべきでは無い人のもとへ、間違っって押し入ってしまった。」と言い、盗み取っていた物達をも、そのまま皆そっくり返し置いて帰ってしまった、ということである。

問1 主語把握の問題(記述)

登場人物の行動をしっかりと整理しながら読めば、それほど難しい問題ではなかったと思います。古典では主語を省略した文章が多いですから、問題演習の際には、しっかりと誰の行動かを確認しつつ読み進める練習が効果的です。

問2 内容把握の問題(選択)

傍線部の後に、尼上が発言しています。ということは、小尼君が尼上に「お召しになって下さい。」と話しかけているわけです。このように、周りの情報を整理すれば、小尼上が、「服を盗まれて紙の夜具を着ている尼上」にかれ色の小袖を着てもらうために持ってきたと分かります。

問3 内容把握の問題(記述)

本文の記述をよく読みましょう。「それも奪取の後には…」とあるので、主語は「奪取した人=強盗」です。「それ=かれ色の小袖」を「わたしの物」と思っているわけですね。全てをしっかりと組み立てて答えましょう。

問4 語句の意味を問う問題(選択)

少し難しいところもありますが、話の流れをよく考えて解答しましょう。どの問題も、周りの内容を確認しながら答えれば、正解にたどりつけます。それぞれの正解については、現代語訳を参照して下さい。

問5 内容把握の問題(抜き出し)

非常に正解率が高い問題でした。本文の内容をしっかりと理解できていたということだと思います。もちろん、「落さしめ給ひたれば…」が大きなヒントとなります。二行目にも、「落したりける」とありますので、正解は見えてきますね。

問6 内容把握の問題(選択)

本文の「教訓」を示す部分、いわゆる「オチ」の部分を理解しているかを確認する問題です。傍線部が「(強盗は)盗ったものを全て返して退散した」という意味になると理解できれば、あと一歩です。なぜ返したのか?強盗は帰ってきて、しばらく考えてから返しています。その辺りからも推測できますね。

対策と アドバイス

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま合った、間違っったということでも一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力=読解力を養うように心がけましょう。来年度も、「漢字・口語文法(品詞の識別)・語句の意味・指示語」など基本的なことを中心に問題を作成する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。国語力は、全ての教科の基礎と言われています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかりと勉強して下さい。

新しい学力観に基づく問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせず本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思えますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が出題されています。学校の授業での演習の機会を大切に、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、直前入試対策説明会(12月)では、模擬問題(新傾向)の解説を予定しています。本校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。